

昭和村人物伝―石井与平治―
昭和田村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫

今回から、沼田市・高山正著「利根沼田の人物伝」(上毛新聞社・平成三十年三月二六日発行)に掲載された二〇〇名のうち、昭和村に関係する十一名を年代の古い方から順次紹介したいと思う。著者の高山正氏は当時、沼田市歴史資料館館長として執務していたほか、群馬歴史散歩の会利根沼田支部の事務局長としても活躍している。現在は沼田市観光協会事務局長として、沼田市の観光、歴史文化発展に尽力されている。

それでは「利根沼田の人物伝」に登場する村関係者十一名のうち、一番古い人物である石井与平治を紹介する。石井与平治は、越後と上州を結ぶ清水越え新道後の清水国道の開削計画を奉行所に願い出て、開通に尽力した。

石井与平治は、寛政元年(一七八九)上州勢多郡糸井村(現昭和田村糸井南内出)に生まれた。家は代々名主を務めた家柄で、大きな農家だった。農業のかたわら、読み書き・そろばんにも励んでいた。

天保四年(一八三三)利根地方は夏になっても寒い日が続き、八月に霜が降り米も実らず、畑

の農作物も何ひとつ満足に収穫出来ない年が四年間も続いた。蓄えもなくなり、飢え死にする人が多く出た。村の寄り合いでもこの事について協議するが名案が出ない。天保八年、気候は落ち着き飢饉もおさまった。

用事で沼田城下に出かけた与平治は、めし屋で江戸谷中の米商人、大川領平と知り合った。越後の米は、利根と目と鼻の先にありながら、近い道がないために、必要な時に安い米が買えない。二人は考えた。領平が言うには「上州利根川と越後信濃川の上流を結ぶ道をつくり、越後の米を上州や江戸へ運ぶ、この方法が一番」と話した。その後、二人は何度となく話し合いを持ち、この計画を奉行所に願い出した。

この頃、越後の米は船で下関を経由し、江戸に着く時には品質は下がるが値段は高額であった。この解決案が三国街道より距離を約十八キロ短縮する清水越えだった。与平治と領平の努力は地元民・国の協力を得て明治十八年九月、国道として全通したが、慶応四年六月与平治は完成を見ずして七十九歳で没した。現在市販されている地図をみると、国道十七号線のなかに清水街道(清水峠越)と明記されている所があるのには驚く。改めて石井与平治の功績の大きさ、先見の明に賛辞を送りたい。



地域包括支援センターだより

地域にとって大切な場所、サロンの活性化をめざして!

～第22回きずなサポーター会議を12月10日に行いました～

新型コロナウイルス感染症対策のため、人数制限や入り口での手指消毒・検温を実施し、きずなサポーター会議を地域活性化センターで開催しました。

今回は、内田病院の音楽療法士(サロンアドバイザー)高橋由貴子先生に「サロンで行える脳トレ」を教えてくださいました。数人のグループをつくり「12月で思い浮かぶものは?」といった連想ゲームや座り

ながら行う「窓ふき体操」、「真似っこゲーム」などを教えていただきました。高橋先生からは「地域のサロンで実践するときはルール説明を最初に行い、動きはわかりやすく!」とアドバイスがありました。

参加したきずなサポーターの皆さんからは「手軽にできるゲームで楽しかった」「頭も体も使う内容で良かった」といった感想が聞かれました。



グループになって脳トレゲームに取り組むサポーターの皆さん

問合せ 地域包括支援センター ☎24-5111(内線134・135)